

# 日本電子キーボード音楽学会 第12回全国大会

## 要 項

主 催：日本電子キーボード音楽学会

共 催：昭和音楽大学

と き：2016年11月13日（日）10：30～17：45

と ころ：昭和音楽大学南校舎



## 目次

プログラム	2
ごあいさつ	3
基調講演 日本音楽舞踊会議コンサートシリーズから見えてくる電子オルガンの将来像 ピアニストから見た電子オルガンの魅力	4
「ELオーケストラによるコンチェルトとアリアの夕べ」シリーズと共生の可能性	4
戸引小夜子 (音舞会副理事長)	4
「COMPOSITIONS」シリーズとオリジナル作品の可能性	5
西山淑子 (音舞会理事)	5
パネルディスカッション 電子オルガンの教育楽器としての可能性—電子オルガンの裾 野を拓げる試み—	8
パネリスト：西山淑子／小林ひとみ／高橋 豊 司会：柴田 薫 書記：金銅英二	
パネルディスカッション 電子キーボードとITCを活用する音楽教育	10
パネリスト：上出美希／小梨貴弘／田中功一 司会：脇山 純／小倉隆一郎 書記：石川裕司	
ラウンドテーブルタテ線譜メソッドとは何か - II —シニア世代から小学生まで広がったメ ソッド実践報告—	14
企画：阿方 俊 アドバイス：和智正忠 司会：内田智子 書記：坂 利美	
研究発表	
① 生演奏の意味合いを踏まえたスピーカーの配置、演奏会場での音空間のデザイン	18
森松慶子	
② アメリカのML教材の台湾における実践と課題	19
マーク・マンノ	
③ 大宮和幸楽器シニア対象キーボード講座—タテ線譜の改良と身体にやさしい奏法の 早期導入—	21
秋谷万里子	
④ 高度経済成長期1970年前後の電子オルガン事情	22
金銅英二	
⑤ ミュージカル創作におけるMLの活用	23
石川裕司／小林恭子	
⑥ 小学校におけるタテ線譜を用いた鍵盤ハーモニカの学習について	24
垣浪文美香	
⑦ ベルリンフィルと人工知能合奏技術による共演の試み	25
前澤 陽	
⑧ 鍵盤指導者による音楽療育活動—音楽でつなぐ心の輪—	27
稲原文江／島田美智子／藤井京子	
JSEKM 情報交換2016	
電子オルガン関連 (パネルおよび研究報告まとめ他)	28
柴田 薫	
ML関連 (パネルおよび研究報告まとめ他)	28
脇山 純	
タテ線譜メソッド関連 (パネルおよび研究報告まとめ他)	28
和智 正忠	
海外関連 (中国のEOコンクール,シンガポール音楽院のEO楽団他)	28
阿方 俊	

## プログラム 11月13日(日)

10:00 受付

10:30 開会

あいさつ 築瀬 進(昭和音楽大学学長)

出田敬三(日本電子キーボード音楽学会代表幹事・平成音楽大学学長)

10:45 基調講演

日本音楽舞踊会議コンサートシリーズから見えてくる電子オルガンの将来像

・ピアニストから見た電子オルガンの魅力 北川暁子(音舞会理事長)

・ELオーケストラによるコンチェルトとアリアの夕べ」シリーズと共生の可能性

戸引小夜子(音舞会副理事長)

・「COMPOSITIONS」シリーズとオリジナル作品の可能性 西山淑子(音舞会理事)

11:30 総会

1. 開会の辞

2. 議長選出

3. 報告 1) 2015年度下半期～2016年度上半期活動報告

2) 2016年度上半期会計報告・同監査報告

3) 2016年度選挙結果報告他

4. 協議 1) 第13回全国大会候補地について

2) その他

5. 閉会の辞

12:00 昼食

13:00 パネルディスカッション&ラウンドテーブル

①電子オルガンの教育楽器としての可能性—電子オルガンの裾野を拓ける活動—

パネリスト:西山淑子、小林ひとみ、高橋 豊 司会:柴田 薫 書記:金銅英二

②電子キーボードとICTを活用する音楽教育

パネリスト:上出美希、小梨隆弘、田中功一 司会:小倉隆一郎、脇山 純 書記:石川裕司

③タテ線譜メソッドとは何か-Ⅱ—シニア世代から小学生まで広がったメソッド実践報告—

企画・コメンテーター:阿方 俊 アドバイザー:和智 正忠 司会:内田智子 書記:坂 利美

14:30 休憩

14:45 研究発表

① 森松 慶子:生演奏の意味合いを踏まえたスピーカーの配置 演奏会場での音空間のデザイン

② マーク・マンノ:MacGAMUT 6 ソフトウェアによる基礎楽理及び聴力学習の強化

③ 秋谷 万里子:大宮和幸楽器シニア対象キーボード講座—タテ線譜の改良と身体にやさしい奏法の早期導入—

④ 金銅 英二:高度経済成長期 1970 年前後の電子オルガン事情—ハモンドオルガン X-66 を中心に—

⑤ 石川 裕司、小林 恭子:ミュージカル創作における ML の活用

⑥ 垣浪 文美香:小学校におけるタテ線譜を用いた鍵盤ハーモニカの学習について

⑦ 前澤 陽:ベルリンフィルと人工知能合奏技術による共演の試み

⑧ 稲原 文江、大庭 美奈子、島田 美智子、藤井 京子:鍵盤指導者による音楽療育活動

17:00 JSEKM 情報交換 2016

18:00 懇親会

## ごあいさつ

日本電子キーボード音楽学会代表幹事  
平成音楽大学学長  
出田 敬三

### 第12回大会に寄せて



このたびは第12回の全国大会が開催の運びとなり、その開催校としてご準備と会場提供にご尽力くださいました昭和音楽大学の理事長 下八川 共祐先生、学長 築瀬 進先生はじめ大学関係者の皆さまに心より厚く御礼申し上げます。

私ごとで恐縮ですが、丁度半年前の2016年4月14日午後9時26分熊本大地震で被災いたしました。大学内の施設や備品の甚大な被害に加え大学周辺地域の皆さまへの大きな被害に悲しみと虚無感に襲われておりました。そんな中、学会からそして学会会員の皆様方から温かい励ましのお言葉と多大なるご支援を物心両面より賜りました。この痛ましい経験を通じ、学会そして学会会員の皆さまとの深い絆を実感すると共に、皆さまの温かいご支援を糧に全身全霊で大学の再生復興、そして地域の復興に陣頭指揮を取り、教職員・学生と一丸となり現在まで日々努力している次第です。数々の温かいご支援を頂戴しました日本電子キーボード音楽学会そして本学会会員の皆さまに大学を代表し厚く御礼申し上げます。

今回、多くの大切な仲間や物品を失い、改めて「形に見えないもの」の重要性を痛感しております。「形にみえないもの」、前述の絆、愛情、支え、努力、志、心・・・その中でも我々に関連が深い感性の集大成といえる「音楽」も非常に大切に、生きることそして復興の大きなエネルギーとなることを再確認しております。

さて、今回の第12回全国大会では日本音楽舞踏会議の理事長 北川暁子先生、副理事長 戸引小夜子先生、そして理事で本学会員でもあります西山淑子先生に「コンサート実践から見た電子オルガンの魅力」と題した基調講演をお願いいたしました。また数々のパネルディスカッションや研究発表など企画されており、海外からはマーク・マンノ先生が参加されます。さらに夕刻より各分科会間の情報交換会も新企画で組み込まれています。会場が分散して並列開催のパネルディスカッションや研究発表が聴けない環境を大きく改善する試みと期待しております。

第12回全国大会が皆様方の積極的なご参加によって仲間の絆が深まり、新たな発見と学び多き明日への第一歩となる「出発の日」となりますよう、そして最新のテクノロジーで発展し続ける電子楽器・電子音楽の世界が益々活性化することを祈念し、私のごあいさつとさせていただきます。

基調講演

日本音楽舞踊会議コンサートシリーズ

から見えてくる電子オルガンの将来像

・ピアニストから見た電子オルガンの魅力

北川暁子／音舞会理事長

・「エレクトーンオーケストラによるコンチェルトとアリアの夕べ」シリーズと  
電子楽器とアコースティック楽器（含、声楽）共生の可能性

戸引小夜子／音舞会副理事長

・「COMPOSITIONS」シリーズと電子オルガン作品の可能性

西山淑子／音舞会理事

日本音楽舞踊会議（略称：音舞会）は、昭和37年（1962）、音楽および舞踊の専門家によって創立された総合文化団体であり、54年の歴史をもつ。音楽家が自ら作るマンスリージャーナル「音楽の世界」（昨年から季刊）は、2008年に創刊500号を、また先月には通巻574号を発行して今日に至っている。

一方において、いろいろなジャンルの演奏活動も数多く展開してきた。その中において、ハイテクノロジー楽器エレクトーン（ヤマハ製電子オルガン）も例外ではない。これらのコンサートは「音楽の世界」を通して音楽や舞踊の将来を問うてきた。

本基調講演では、以下の3つの視点から電子オルガンの将来像を探る

- ① ピアニストからみた電子オルガンという楽器の魅力
- ② 電子オルガンとアコースティック楽器（含、声楽）共生の意味
- ③ 楽器のアイデンティティとしての電子オルガンの可能性

1. 日本音楽舞踊会議活動と電子オルガンの魅力 北川暁子（ピアニスト、音舞会理事長）

- ・ 日本音楽舞踊会議とその目指すもの
- ・ 日本音楽舞踊会議コンサートと特長
- ・ ピアニストからみた電子オルガンの魅力

2. 「エレクトーンオーケストラによるコンチェルトとアリアの夕べ」シリーズと電子オルガンとアコースティック楽器による共生の可能性 戸引小夜子（ピアニスト、音舞会副理事長）

- ・ 日本音楽舞踊会議の電子オルガン関係コンサート
- ・ ピアニストとして共演してみて感じたこと
- ・ エレクトーンアンサンブルならではのメリットと指揮者の重要性

これからの鍵盤楽器教育のあり方のひとつといえるピアノ専攻生のための「スコアリーディング奏法」および「エレクトーンアンサンブル」のもつ教育上の意味

### 3. 電子オルガンのアイデンティティと「COMPOSITIONS」シリーズ

西山淑子（作曲家、電子オルガン演奏・指導）

- ・ 「COMPOSITIONS」シリーズのもつ意義
- ・ 電子オルガン音楽には顔がない？
- ・ 作曲家と演奏家との新しいコラボ関係（林光スタイル、一柳慧スタイル、西村朗スタイル）
- ・

### 4. 日本音楽舞踊会議の電子オルガン関連直近コンサート

- ・ エレクトーンオーケストラによるコンチェルトとアリアの夕べ  
2016年11月18日(金) ヤマハエレクトーンシティ渋谷
- ・ COMPOSITIONS 2016  
2016年11月25日(金) ヤマハエレクトーンシティ渋谷

#### 《講演者略歴》

##### 北川暁子



丸山淑子女史、L. コハンスキー教授に師事。1964年イノホールで第1回リサイタル。1967年武蔵野音楽大学卒業。同年オーストリー国立アカデミー入学。R. ハウザー教授に師事。1969年アカデミーを全教授一致最優秀で卒業。ベーゼンドルファーコンクール優勝。1970年ミュンヘン国際コンクール2位。1984年演奏活動20周年ベートーヴェンソナタ全曲連続演奏会（10日間7夜）。東京芸術大学名誉教授。日本音楽舞踊会議理事長。

##### 戸引小夜子



国立音楽大学修士課程卒。NHKオーディションに合格し「コンチェルトの夕べ」にラフマニノフ第2番ピアノ協奏曲にて出演。飯塚シニア音楽コンクール第1位。朝日新聞社賞。ニューヨーク・カーネギー・ホール、ペテルブルグ、東京にてもリサイタルを開催、邦人作曲家の作品（発表）のも意欲的である。S・ドレンスキー、ウラジーミル・竹の内、水谷達夫の各氏に師事。国立音楽大学ピアノ科講師を経て、現在「夜の会」主幹、音舞会副理事長

##### 西山淑子



『エレクトーン伴奏によるピアノ初心者のためのピアノコンチェルト』を多数編曲し、電子オルガンを導入したピアノレッスンを展開している。

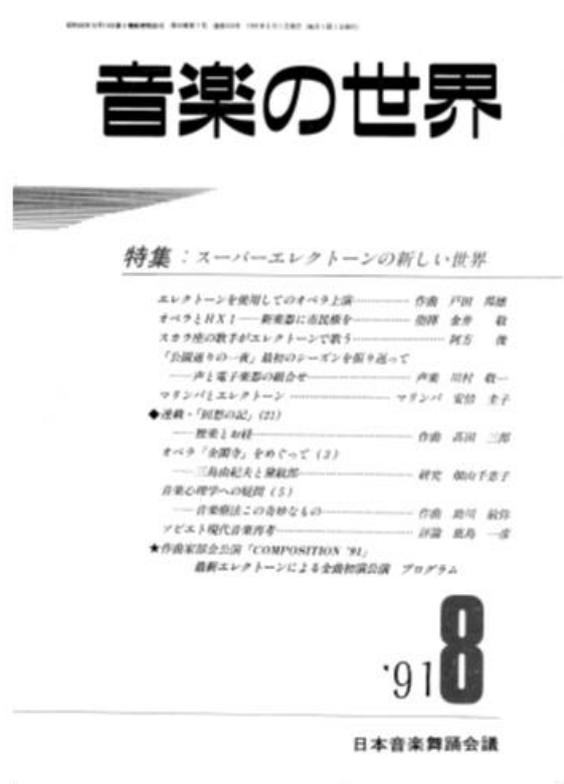
〔よしこの音楽室〕主宰。昭和音楽大学講師。武蔵野音楽大学大学院修了。全日本ピアノ指導者協会（ピティナ）正会員。日本電子キーボード音楽学会、日本音楽舞踊会議、各会員。 <https://www.yoshikonishiyama.com/>



「音楽の世界」電子オルガン特集および音楽大学の新しい展望



特集：電子オルガンとその世界  
第1回目の COMPOSITIONS '90 記念特集



特集：スーパーエレクトーンの新しい世界  
COMPOSITIONS '91 を記念しての特集号



特集：アジアにみるエレクトーンの潮流  
COMPOSITIONS '96 を記念しての特集号



特集：音楽大学の新しい展望  
21世紀の電子オルガンを含む音楽大学特集号

電子オルガン部会

電子オルガンの教育楽器としての可能性  
—電子オルガンの裾野を拡げる試み—

パネリスト：西山淑子（昭和音楽大学）、小林ひとみ（カワイ音楽教室）、  
高橋 豊（エレクトーンシティ渋谷）  
司 会：柴田 薫（昭和音楽大学）  
書 記：金銅英二（松本歯科大学）

電子オルガン部会では、最先端技術を駆使し進化を続ける電子オルガンの音楽表現の視点からの変遷、あるいは音楽表現の原点についてパネルディスカッションを通じ、これまで議論してきた。さらに、音楽表現の集大成で発表の場といえる電子オルガンコンクールにも焦点をあてて意見交換をおこなってきた。いずれの企画も電子オルガン界の隆盛を目指し、また電子オルガンの社会的認知度をどのような方法でより向上できるかを会員の皆様と模索してきたといえる。

電子オルガンの世界感で次世代を見据えたとき、果たして今日まで展開されてきた電子オルガンコンクールは今後も開催可能であるのか？18歳人口の減少、超高齢化社会など社会構造が激変し、電子オルガンを学ぶ、教える、愛好する、そして音楽表現する形態も人口も激変しているのではなかろうか。

1960年代から初等教育機関での電子オルガン導入設置が始まり、ピアノやリードオルガンと共に音楽教育現場で活用がなされてきた。しかし、近年では電子オルガンから電子キーボードへとその活用の軸は変わり、「三段鍵盤」の楽器を活用している現場は減少しているようにも見える。一方で、本学会には音楽大学ピアノ科で高度で専門的な演奏技術を学んだ後に電子オルガンと出会い、電子オルガンで音楽表現する演奏活動を積極的に展開している学会員も存在する。自身のピアノに対する造詣の深さを生かし、電子オルガンとピアノを用いたピアノコンチェルトの演奏活動、奏者の育成などにも取り組みが行われ、電子オルガンのさらなる可能性、活躍の場を広める展開として焦点を当ててみた。

他の楽器や声楽とのアンサンブルは電子オルガンの可能性と限界を広く認知してもらえる機会だけでなく、裾野を拡げる機会にもなっているのではなかろうか。演奏や教育活動に関わる3人のパネリストの日頃の現場での周囲の反応や反響など、また裾野を拡げる今後の展開などお話いただく予定である。

電子オルガンは多数の音色を装備し、足鍵盤を含めた三段以上の鍵盤を駆使して音楽表現する独自の楽器で教育楽器としての無限の可能性を秘めていることは言うに及ばない。現にヤマハ音楽教室幼児科ではエレクトーンを使用した音楽導入集団レッスンが積極的に展開されている。これは、まさに全国規模・世界規模で音楽の初期導入教育が電子オルガンで行われていることになり、未来ある幼児だけでなく大人の保護者に至るまで電子オルガンに触れる、聴く機会が提供されているといえる。

このように音楽教室で英才教育を受けた生徒さんが幼児科修了後、音楽や電子オルガンとどのような関わりをもち生活をしているのか、実際の現場の現状も会場内から広く聴取してみたい。会場内のパネリストと全国から参加された会員の方々との積極的な意見交換・情報交換の環境を創り出し、これからの電子オルガンの裾野を拡げる取り組みや教育楽器としての可能性などを模索したい。

#### パネリスト プロフィール

西山淑子（にしやま よしこ）

『エレクトーン伴奏によるピアノ初心者のためのピアノコンチェルト』を多数編曲し、電子オルガンを導入したピアノレッスンを展開している。

[よしこの音楽室] 主宰。昭和音楽大学講師。武蔵野音楽大学大学院修了。全日本ピアノ指導者協会（ピティナ）正会員。日本電子キーボード音楽学会、日本音楽舞踊会議、各会員。

<https://www.yoshikonishiyama.com/>

小林ひとみ（こばやし ひとみ）

生粋の阿波っ子。ドリマトーン歴三十?年。現在、カワイ音楽教室講師。カワイドリマトーンコンクール全国大会で数々の入賞経験あり。門下生のコンクールでは、最優秀指導者賞を多数受賞。第2回アマービレ電子オルガンコンテストでアマービレ優秀賞を受賞。電子オルガン普及の為、演奏活動も精力的に行う。

高橋 豊（たかはし ゆたか）

東京ミュージック&メディアアーツ尚美卒業。在学中よりコンチェルトの伴奏を始める。卒業後、ヤマハ音楽教室の講師を経て、2001年に現代曲によるデビューリサイタルを行い各方面より好評を得る。現在まで数多くのオペラ全曲伴奏を全国的に行う。2005年からの6年間、文化庁主催「本物の舞台芸術体験事業」に参加し、全国的にオペラの浸透と普及に努めてきた。現在、日本電子キーボード音楽学会正会員、日本音楽表現学会正会員、全日本ピアノ指導者協会会員、ヤマハ(株)エレクトーンシティ渋谷所属として音楽スタッフ、コンチェルトでの共演、指導といった分野で活動。

ML (ミュージック・ラボラトリー) 部会

## 電子キーボードとICTを活用する音楽教育

パネリスト：上出美希 (杉並区立杉並和泉学園中学校)、小梨貴弘 (戸田市立美谷本小学校)、田中功一 (立教女学院短期大学)  
司会：脇山 純 (平成音楽大学)、小倉隆一郎 (文教大学)  
書記：石川裕司 (東京学芸大学)

### グラフィックを用いた音楽の創作実践

～タブレット端末の効果的な活用を目指して～

杉並和泉学園 上出 美希

#### (1) タブレット端末を用いた創作活動について

創作活動は、これまでの学習内容を生かし、自分の思いや意図を楽譜や言葉で表現する活動である。創作活動を通して、生徒一人ひとりの考えを他者に示すことができる。しかし、創作活動は授業時数確保の難しさや、誰でも楽譜で表せるように手順を示しすぎることによって同じような作品が出来上がってしまうなど、生徒個人の発想を形にしていくことが難しい活動である。また、楽譜にするとということに多くの生徒が苦手意識をもってしまうため、意欲をもって取り組むことが難しいという面もある。

そこで本実践では、タブレット端末を用いることで、簡単に楽器を演奏したり、楽譜を書いたりすることで、意欲的に授業に参加し、思いや意図をもって表現を工夫する活動ができるよう工夫した。

#### (2) 実践内容

題材名：図形楽譜をつかって、音やイメージを表現しよう

<第1時> 図形楽譜を書いてみよう【ペイントソフト】

- 図形楽譜として記譜をすることで、誰でも簡単に楽譜として記録を残すことができる
- 音楽は時間とともに動いているため、図形楽譜は3枚以上作成し、つなげると動きがあるものになるようにした

<第2時> 自分がつくった図形楽譜のイメージに合う楽器を選んで音楽をつけよう【音楽作成ソフト】

- 楽譜選びに時間がかからないよう、使用できる楽器は1種類とした
- タブレット端末を用いることで、奏法を知らない楽器でも奏法を工夫することができた
- 録音機能を用いることで、創作したものを記録し、次時でスムーズに続きを行うことができた

<第3時> 画像と音楽をつなげ、表現を工夫してみよう【動画作成ソフト】

- 第1時で作った画像と、第2時で作った音楽を組み合わせ、さらに必要だと思う音を付け足したり、音の高さを変更したりするなどの工夫を行った
- 第2時で作った音楽の音程などは、タブレット端末の操作によって、簡単に変更することができた

#### (3) 成果

- ・ 生徒の創作活動に対する意欲の高まりがみられた
- ・ 実際には手元に楽器がない状態であっても、タブレット端末を用いることで、楽器を選び、奏法を工夫することで、イメージにあった音色を選択することができた

- ・今後の活動に生かしていくための音楽の要素（リズム・強弱・速度など）や構成の工夫を行うことができた
- ・音楽とグラフィックの関連性への興味が高まった
- ・タブレット端末の活用方法の習熟につながった

#### （４）今後の課題

- ・テーマ設定について  
今回は「自分の好きなもの」というテーマで行ったが、範囲が広く、テーマを決めることが難しかった生徒が多かった
- ・音楽を構成する力  
教員の例を示すことで、教員の真似になってしまう生徒や、好きなものそのものを楽譜として書いてしまうことで、効果音のような音楽になってしまう生徒がいた

#### パネリスト プロフィール

上出美希（かみいで みき）

1990年生まれ。石川県出身。

東京学芸大学中等教育教員養成課程卒業。専攻は声楽。大学在学中より、中地雅之氏のもとで創作活動について学ぶ。

小梨貴弘（こなし たかひろ）

1972年生まれ。東京都出身。文教大学教育学部卒業。

大学在学中は作曲・編曲を柳田孝義氏に師事。コンピューターを使った授業や作曲、浄書について研究を行う。埼玉県内の小学校6校で学級担任、音楽専科教員として勤務。

音楽教育勉強会「音楽教育駆け込み寺」サブアドバイザー

日本音楽教育学会会員、日本電子キーボード学会会員

ブログ…「音故知新 on-ko-chi-shin」(<http://on-ko-chi-shin.hatenablog.com>)

田中功一（たなか こういち）

立教女学院短期大学 幼児教育科准教授

研究分野は、音楽教育(ピアノなど)、情報学(文化科学)

所属学会等: 日本電子キーボード音楽学会, 全国大学音楽教育学会, 日本音楽教育メディア学会, 日本音楽教育学会, 日本教育工学会, 全日本ピアノ指導者協会正会員, ほか非会員として, 情報処理学会音楽情報科学研究会, 教育情報システム学会にて研究発表あり。

【競争的資金獲得実績】1)科学研究費補助金基盤(C)研究代表者[2010-2012.モバイルラーニングによる実技教育の振り返り学習, 2013-2015.潜在保育士の再就職を支援する音楽実演映像によるモバイルラーニング, 2016-2018.保育・教職志望者のピアノ授業と個別学習を連携する演奏eポートフォリオの開発と実践](※注:学歴は省略)



## 学校音楽科でのICT活用の在り方について

戸田市立美谷本小学校 小梨 貴弘

<小学校音楽科でICT機器を活用する5つの目的>

児童の視点から	①教材をより魅力あるものにするために
	②音楽室のユニバーサルデザイン化のために
	③アクティブラーニングの促進のために
教師の視点から	④授業のスピード感を保つために
	⑤教務の効率化を図るために
	⑥音楽行事を盛り上げるために

～具体的な活用例～ 【活用するICT機器】

### ①教材をより魅力あるものにするために

- ・音源の速度や調に瞬時に変化を加えることで、より演奏しやすいものに【パソコン、タブレット】
- ・音源を映像化し、歌詞や関連する画像を加えることで、楽曲への興味関心を高める。【パソコン、タブレット、大型TV】
- ・音素材を提示し、自由に音楽づくりをするためのツールとして。【タブレット】
- ・デジタル音源と生の楽器の音色の相違から、本物の楽器の響きの美しさを感じ取るためのツールとして。

### ②音楽室のユニバーサルデザイン化のために …音楽室の環境をシンプルに、ビジュアルシンカーへの配慮

- ・学習情報をテレビに集中することで視覚刺激が減少し、授業に集中できる。【パソコン、タブレット、大型TV】
- ・児童が見やすいように楽譜作成ソフトを使って楽譜を浄書する。【パソコン】
- ・テレビに表示させながら、書き込みをする。【タブレット、大型TV】



### ③アクティブ・ラーニング推進のために

- ・学習活動全般における、話し合いを促すためのツールとしての活用【タブレット】  
…録音・録画機能、音楽再生機能の活用
- ・鑑賞や音楽づくりにおける、音楽を構成する学習活動のツールとしての活用【タブレット】

### ④授業のスピード感を保つために

- ・教材曲の交換時、題材提示時の「空白の時間」を減らし、騒がしくなるのを防ぐ。【パソコン、タブレット】  
→あらゆるメディアを集中的に管理することで、交換の時間的ロスを減らす。
- ・教師の伴奏の技術を補うツールとして…魅力的な伴奏を瞬時に再生【パソコン、タブレット】

### ⑤教務の効率化を図るために

- ・授業計画、実施記録の電子化…授業の計画的実施の促進、過去の記録検索を容易に【パソコン、タブレット】
- ・評価記録の電子化…授業の流れの中で効率的に評価し、信頼性、客観性を高める。【タブレット】
- ・紙媒体楽譜、書籍等の電子化、メディアライブラリー化【パソコン、タブレット】
- ・紙媒体情報の管理、クラウド化【パソコン、タブレット】

### ⑥音楽行事（校内音楽会、音楽朝会等）を盛り上げるために

- ・体育館でのプロジェクターを活用した映像の投影（プログラム、タイトル、歌詞、関連映像等）【パソコン、プロジェクター】
- ・音楽行事に関連する映像、スライドショーの作成、上映（オープニング、回想シーン等）【パソコン、プロジェクター】
- ・音楽行事における使用音源の管理、ポン出し【パソコン】

## ピアノ演奏の見える化を活用する学習ポートフォリオの試み

田中功一

第10回大会(2014年)のパネルディスカッションにおいて、筆者らは共同研究開発による『演奏見える化ツール』を使った演奏状況をグラフに示し演奏分析する取り組みをご紹介します。ここでは、グラフに示すのに少し時間を要し、また教員の仲介を必要とする課題を残しました。その後ツールを改良し、タブレットの簡単な操作で演奏直後にグラフの表示が可能になりましたのでご報告いたします。

この研究の目的は、保育・教職養成校のピアノ初心者が自学自習において独力で学習を進めるための支援をICT活用により行うものです。自学自習が進めば正課授業はより質の向上が図られると考えます。筆者らは次の4つの構成を学習理論の発展史に沿ってイメージしています。すなわち、①教員の模範演奏を見て聴いて真似るように学ぶ行動の結果として身につく行動主義的な学習、②自身の演奏と模範演奏を比較し、③振り返りを通して問題点を知り演奏改善を目指す認知主義的な学習、④自身の学習と他者の学習の蓄積を客観的に捉え、また学習者間で共有して学習者が学習を主観的に構築する構成主義的な学習です。ピアノ学習のような技能習得ではこれらは重要であり、この順序で進めるのがよいと考えます。ピアノ演奏の見える化を学習者へフィードバックする方法は、教員が行う体面授業においても新しい取り組みですが、ICTの活用により自学自習環境への導入の発展可能性が考えられます。

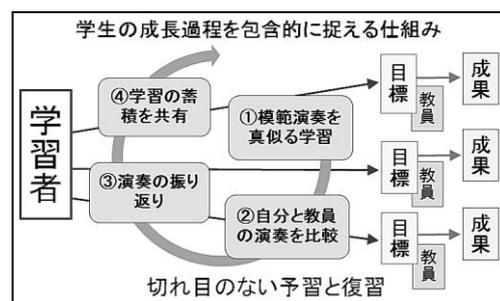
これまでの筆者らの研究において、①教員の模範演奏ビデオをスマートフォンで視聴する学び、②初心者が自身の演奏状況を知ることによる学びの始まり、③演奏の振り返り、これらについて成果を報告してまいりました(田中ら2015)。現在、④学習ポートフォリオにより学習の成果や学習の経緯を客観的に捉え、次の学習を学習者が主体的に組み立てる取り組みを進めています。

④学習ポートフォリオは、自学自習を想定し、学習者が見える化ツールの画面操作を3タッチで行い、その様子をデジタルノートに記録する構成です。デジタルノートの記述には学生の気付きが見られる箇所も多く、記述も手際よく行われました。その中には「練習テンポが少し速すぎて、自分のテンポの揺れに気づきませんでした。ゆっくりのテンポから練習したいです。」、また「沢山練習してきて良かったです。左手の音の長さは自分で練習していて全く気がつかなかったので、家でもう一度仕上げをしたいです。」という記述が見られました。各学習者はそれぞれの技能進度に対応した目標のもとに自学自習を進め、この経緯はポートフォリオに蓄積されます。教員はポートフォリオを閲覧して学生の自学自習状況の把握が可能になります。さらにポートフォリオを学習管理システム上に置けば、教員は多くの学生の学習状況一元的に把握することが可能となります。このように自学自習の状況が把握できれば、その情報を正課の対面授業に生かすことが可能になり、対面授業の質向上に貢献できると考えます。

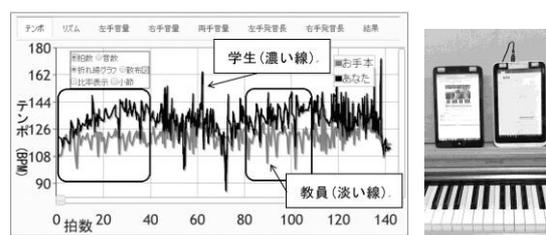
本研究は科学研究費補助金基盤(C)課題番号16K01148、及び、放送大学教育振興会助成金の支援を受けて進めています。

### — 参考資料 —

保育者養成課程のピアノ初心者を対象とした演奏見える化ツールの活用実践—バイエル9番の演奏改善を目的として—, 田中 功一・小倉 隆一郎・鈴木 泰山・辻 靖彦, 電子キーボード音楽研究 vol.10, pp.3-12, 日本電子キーボード音楽学会, 2015-11.



学習ポートフォリオの全体像



見える化の画面(左)、デジタルピアノとタブレット(右)

## タテ線譜メソッドとは何か - II

### —シニア世代から小学生まで広がったメソッド実践報告—

構成・コメンテーター 阿方 俊

はじめに

ピアノにあこがれをもち、もし「エリーゼのために」が弾けるものなら習ってみたいと思ったことのある人は多い。しかし現実的には、大半の人は「楽譜」の難しさがネックでピアノを習うのを躊躇したり、また習いはじめても「楽譜」の繁雑さのため、途中で挫折してしまうのが実態である。一方、カラオケを楽しんでいる人たちには「楽譜」を見て歌っている人はいないといっても過言ではない。このカラオケの「楽譜」を見ないで音楽を楽しむ方法を鍵盤楽器に応用できないかと考案されたのが「タテ線譜」とその指導メソッドである。

タテ線譜メソッドと教材は、30年余り前、阿方がヤマハドイツ駐在時に考案したものである。日本では、5年前に昭和音楽大学の生涯教育講座の中で用いられたのが最初であったため、このメソッドは、シニアの人たちを中心に展開されてきた。しかし最近、いろいろな場所とシニア以外の人たちでも試みられるようになってきた。対象の多様化と共に、今までと異なった「音楽の楽しみ方」と「新たな課題」が出てくるようになってきたのをきっかけに、本学会では「タテ線譜メソッドとは何か」というテーマでラウンドテーブルを開くようになった。

昨年度はラウンドテーブルシリーズ-Iとして、タテ線譜に関係する多様な分野の人たちとの情報交換が行われた。今年度はタテ線譜メソッドの実践に関わる「指導する立場」「受講する立場」の人たちを中心に「第三者の立場」の人たちの意見も取り入れてこのメソッドの更なる可能性を考えていく。

企画・コメンテーター：阿方 俊（昭和音楽大学附属音楽・バレエ教室）

アドバイザー：和智 正忠（医学・音楽研究者）

司 会：内田智子（昭和音楽大学附属音楽・バレエ教室）

書 記：坂 利美（元ヤマハ音楽教育システム講師）

#### 1. 参加者自己紹介

タテ線譜「講座受講者」「同指導者」「その他関係者」

#### 2. 齋藤 康之（木更津高専） オープンキャンパスで小中学生全員が「タテ線譜×自動伴奏システム（ユリディス）の効果体験」参加者全員が初演奏を初見で楽しむ \*ビデオ

#### 3. タテ線譜メソッド講座受講生（昭和音楽大学附属音楽・バレエ教室「楽しく鍵盤楽器を弾こう」）の現状報告 演奏録画とコメントおよび Q&A

- ・ 三澤クミ子 孫たち（幼稚園～小学校）のタテ線譜パーティ「ハッピーバースデー」\*ビデオ
- ・ 星野 博（元公務員）タテ線譜講座2ヶ月目に起こった「エリーゼの奇跡」
- ・ 高橋 範男（元会社員）傘寿を超えて鍵盤楽器へのチャレンジ「ねこふんじゃった」
- ・ 鈴木 フジ子 一本指奏法によるメロディ奏とアンサンブルの楽しみ「メリーさんのひつじ」
- ・ 松沢 和枝 弾き歌いとエレクトーン体験 ジブリ「天空の城ラピュタ」
- ・ 小林 玲子 五線譜への移行とエレクトーン体験 「モーツァルトの子守歌」
- ・ 坂井 康二（厚木市いきいきサポーター）100歳を超えて、視力を失って、音楽への参加事例

#### 4. タテ線譜メソッド指導者の現状報告

- ・ 阿方 俊（昭和音楽大学附属音楽・バレエ教室）シニアからはじまり幼稚園生にまで広がりを見せはじめた「全世代を対象としたタテ線譜メソッド対応指導法」の必要性

- ・ 秋谷 万里子 (和幸楽器大宮店) ヤマハ特約店音楽教室でシニア対象タテ線譜講座および個人レッスンを「秋谷方式タテ線譜記譜法」で実践
- ・ 垣浪 文美香 (東京学芸大学附属大泉小学校) タテ線譜による鍵盤ハーモニカを用いた「鍵盤楽器能力格差是正」の試み
- ・ 内田 智子 (昭和音楽大学附属音楽・バレエ教室) シニア対象「鍵盤楽器を楽しく弾こう」講座での弾き歌いの楽しみ「歌ではじまる鍵盤楽器学習」のメリット
- ・ 安武 秀 (平成音楽大学) こども学科学生へ鍵盤ハーモニカを用いたタテ線譜教材の応用

5. タテ線譜メソッド講座以外からの話題提供

- ・ 戸引 小夜子 (日本音楽舞踊会議) シニアのピアノ学習者の一事例とタテ線譜の小学生への試み
- ・ 和智 正忠 (医学・音楽) 音楽が脳の活性化に最適であることの医学的研究とリズム講座実践
- ・ 井原 正史 (ローランド) 初心者に適した鍵盤楽器の必要性
- ・ 三枝 文夫 (コルグ) 鍵盤楽器初心者の新製品による楽しみ方
- ・ 伊藤 徹成 (和幸楽器) 音楽需要創造として位置づけられるタテ線譜メソッド \*ビデオ参加
- ・ 黄 笑天 (東京大学博士課程) 中国の老人大学におけるシニア対策とタテ線譜システムの必要性
- ・ 小澤 真弓 (NPO法人歌のボランティア \*いちかわシャンテ) 老人ホーム訪問と歌の重要性
- ・ 嵯峨山 茂樹 (明治大学) ピアノ初心者を対象とした自動伴奏システム (ユリディス) の意味

6. その他当日参加者からの話題提供

7. まとめ

- ・ 参加者による一口メモ
- ・ 和智 正忠 (医学・音楽)

The image shows two examples of vertical line notation (タテ線譜) for piano. The left example, titled "メリーさんのひつじー1", is a simple piece with a melody line and chord markers (C, G) on a five-line staff. The right example, titled "エリーゼのために ①", is a more complex piece with multiple staves, including a left-hand part with chord markers (ラミラ, #ソミソ) and a right-hand part with a more intricate melody. Both examples use numbered circles (1-5) to indicate fingerings for each note.

左：タテ線譜講座で最初に用いられる5指以内で順次進行中心の「メリーさんのひつじー」  
 右：タテ線譜表記で限界に近い「エリーゼのために」。左手も併記されている

# タテ線譜と Eurydice を用いたピアノ初心者向け演奏システム

## ～木更津高専オープンキャンパスでの適用～

齋藤 康之（木更津工業高等専門学校 情報工学科）DVD 参加

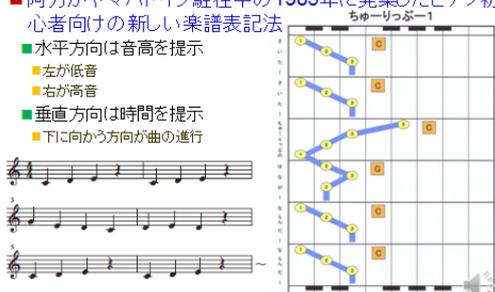
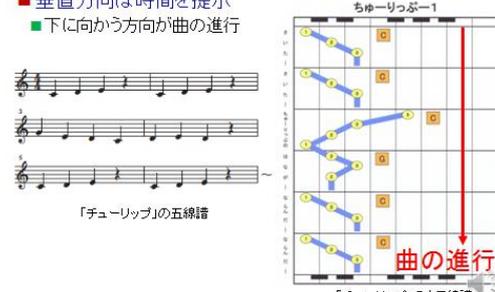
タテ線譜はピアノ初心者向けの新しい楽譜表記方法で、昭和音楽大学（現在、同学附属音楽・バレエ教室）の阿方がドイツ（ヤマハミュージックヨーロッパ）駐在中の 1985 年に考案した。五線譜の場合は、上下方向が音高を示し、左から右の方向が時間の流れを表すのに対し、タテ線譜は、左右方向が音高を示し、上から下の方向が時間の流れを示す。打鍵すべき鍵の位置に「節」と呼ばれる丸が配置され、節と節は「枝」と呼ばれる線分で結ばれる。枝があることで、次の節が、現在注目している節の音高よりも高いか低いかが分かりやすい。また、節内には指番号が記されており、すなわち、節の位置の鍵を指示された指で順番に打鍵すると、奏者は正しい運指で演奏できる。

ピアノのレッスン時に、特に初心者に対しては、レッスン生が右手パートを、指導者が左手パートを演奏することがある。ところが、人の演奏は画一的ではない。テンポや音量の変化などによる演奏表現のほか、演奏誤り（音高誤り、余分な音の挿入、必要な音の欠落）や、ジャンプもありうる。たとえば、演奏ミスや十分な表現ができなかった場合には少し前に戻って弾き直したり、繰り返しを省略して先に進んだりすることがある。したがって、人の演奏に対して伴奏をつけることは容易ではない。それに対し、東京大学の嵯峨山ら（現在、明治大学）により、前述のような演奏誤りやジャンプを許容する、非常に柔軟な自動伴奏システム Eurydice（ユリディス）が開発された。システムにはあらかじめ楽譜を与えておき、奏者の演奏位置を推定して「楽譜追跡」を行い、その位置の伴奏を演奏する。前述のように、人の演奏には揺らぎや誤りが含まれているので、実際に楽譜のどの位置を演奏しているのかは陽に明らかでない。これを、人によって演奏された音だけが観測可能であり、その背後にある楽譜を見て演奏者がある確率でその音を出力すると考える。それは、隠れマルコフモデル (hidden Markov model; HMM) によって数理的にモデル化でき、楽譜の和音を各々「状態」とみなし、演奏の進行はその「状態遷移」で表現し、観測される各々の音は各状態からの「確率的な出力」により得られるとする。このとき、楽譜を見て演奏するという事象を「順問題」（原因から結果を推定）とすれば、楽譜追跡の処理過程はその逆で、「確率的逆問題を解く」という枠組みで捉えられる。ここで、演奏誤りや任意のジャンプを許容するには、ある音高の音が観測されたとき、それが楽譜中で複数存在する可能性がある上に、演奏誤りによる演奏かもしれない、したがって、極端な場合は全ての音符およびその組み合わせについて調べる必要があり、素朴な解の探索方法ではリアルタイムで処理できない。そこで、Eurydice では  $\alpha$   $\beta$   $\gamma$  法という高速な解探索アルゴリズムを実装しており、高い確率で起こる順次進行 ( $\alpha$  遷移)、弾き直しなどや音の欠落など、現在演奏した音符の近傍でのジャンプ ( $\beta$  遷移)、それ以外の遠い位置へのジャンプ ( $\gamma$  遷移) の各確率を求める。また、各状態からは、順次進行の音高が高い確率で出力され、その他、誤った音高が低い確率で出力されるとし、この枠組みによって音高誤りを吸収している。

当発表では、タテ線譜による単旋律のメロディ演奏に、Eurydice による伴奏演奏を付与したシステムを用いて、2016 年 10 月 1 日(土) に開催された木更津高専のオープンキャンパスにてデモ展示を行った様子について紹介する。Eurydice の機能とタテ線譜の読み方を説明した後に、童謡の「チューリップ」について実際に演奏してもらった（計 17 名：中学生 11 名・保護者 1 名・小学生 4 名・本校卒業生 1 名）。すらすら弾けた方、多少のインストラクションが必要だった方など、ばらつきはあったが、以下のような知見が得られた。(1) 研究内容の説明後に演奏することを促した際に、それを拒否した方はい

なかった。2年前までは五線譜を用いて Eurydice の体験をしてもらったが、実際に演奏したのは2〜3割程度であった。五線譜が読めなくても、タテ線譜ならば演奏してみようという気持ちになる。(2) 全ての体験者が最後まで演奏した。途中で演奏を諦めかけて席を立とうとした体験者もいたが(中学生1名・小学生1名)、演奏を促したところ最後まで演奏した。(3) 初めて見たタテ線譜をきちんと読譜できている。運指もほぼ正しい。(4) 多くの体験者が、弾き始めてからはほとんど鍵盤を見ないで演奏した。

### 齋藤康之 DVD 参加パワーポイントから抜粋

<p>タテ線譜とEurydiceを用いた ピアノ初心者向け演奏システム ～木更津高専オープンキャンパスでの適用～</p> <p>○ 齋藤 康之 (木更津工業高等専門学校) 阿方 俊 (昭和音楽大学附属音楽・バシ工教室) 五十嵐 優 (昭和音楽大学附属音楽・バシ工教室) 中村 栄太 (京都大学) 嵯峨山 茂樹 (明治大学)</p>	<h2>1. はじめに</h2> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 五線譜は、様々な楽器の演奏で使用</li> <li>■ しかし、初心者にとっては読譜して演奏するのは困難</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td>■ 音高</td> <td>■ 装飾音</td> <td>■ 調号</td> </tr> <tr> <td>■ 臨時記号</td> <td>■ アーティキュレーション</td> <td>■ 拍子</td> </tr> <tr> <td>■ 音長</td> <td>■ 反復記号</td> <td>■ 略記</td> </tr> <tr> <td>■ 強弱</td> <td>■ テンポ指示</td> <td>■ ...</td> </tr> </table> 	■ 音高	■ 装飾音	■ 調号	■ 臨時記号	■ アーティキュレーション	■ 拍子	■ 音長	■ 反復記号	■ 略記	■ 強弱	■ テンポ指示	■ ...
■ 音高	■ 装飾音	■ 調号											
■ 臨時記号	■ アーティキュレーション	■ 拍子											
■ 音長	■ 反復記号	■ 略記											
■ 強弱	■ テンポ指示	■ ...											
<h2>2. タテ線譜</h2> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 阿方がヤマハドイツ駐在中の1985年に発案したピアノ初心者向けの新しい楽譜表記法</li> <li>■ 水平方向は音高を提示             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 左が低音</li> <li>■ 右が高音</li> </ul> </li> <li>■ 垂直方向は時間を提示             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 下に向かう方向が曲の進行</li> </ul> </li> </ul> 	<h2>2. タテ線譜</h2> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 垂直方向は時間を提示</li> <li>■ 下に向かう方向が曲の進行</li> </ul> 												
<h2>5. 適用結果</h2> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中学生による演奏例(1): 上手に演奏</li> </ul> 	<h2>5. 適用結果</h2> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 当研究紹介ブースの来場者の全てが演奏に挑戦</li> <li>■ 一昨年度までは五線譜を使い、Eurydice を紹介</li> <li>■ Eurydice の機能を説明した後に、実演してみせて、中学生に演奏を勧誘</li> <li>■ トレミの歌)をピアノ演奏したのは、2〜3割程度(大半が遠慮)</li> <li>■ 五線譜が読めなくても、タテ線譜ならば演奏してみようという気持ちに</li> <li>■ 鼓舞するセリフ: 「80歳に負けずに挑戦してみよう！」</li> <li>■ 全ての体験者が最後まで演奏</li> <li>■ 中学生11名、保護者1名、小学生4名、本校卒業生1名(20代)</li> <li>■ ただし、途中で演奏を諦めかけて席を立とうとした体験者あり</li> <li>■ 中学生1名、小学生1名</li> <li>■ それでも演奏を促したところ、最後まで演奏</li> </ul>												
<h2>6. まとめ</h2> <p>タテ線譜と自動伴奏システム Eurydiceを用いたピアノ初心者向けの練習システムを若年層に適用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 来場者の全てが演奏に挑戦             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 五線譜の場合に比べて、多数の人が実際に演奏</li> <li>■ タテ線譜の場合は、演奏に対する心理的距離が短縮</li> </ul> </li> <li>■ 全ての体験者が最後まで演奏             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ たゞとどく、インストラクションが必要な場合がありつつも、演奏できたという達成感: 演奏後に笑顔</li> </ul> </li> <li>■ 初めて見たタテ線譜をきちんと読譜             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 練習なしでも、(ほぼ正しい)運指で演奏。タテ線譜の理解の容易さ</li> </ul> </li> <li>■ 多くの体験者が、弾き始めてからは、フレーズの開始位置の確認以外は、ほとんど鍵盤を見ないで演奏             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 指の触覚の感覚で鍵盤の位置を把握。全体的に円滑に演奏</li> </ul> </li> </ul>	<h2>7. 今後の課題</h2> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 教育現場・医療現場での活用・検証、被験者数の増加             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 幼稚園、保育園、小・中・高校、保育士を目指す学生</li> <li>■ リハビリテーション: 運動機能改善、精神面の改善</li> </ul> </li> <li>■ 運指の正しさの確認             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 運指の状況を取り込み、正しさを判定するシステムの構築</li> <li>■ 習熟度に応じた運指を提示するシステムの構築</li> </ul> </li> <li>■ 音楽ゲームの開発             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 正しい運指のときにだけ加点</li> </ul> </li> <li>■ タテ線譜そのものの改良             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 色づけによる視認性の向上: 節が対応する鍵盤の位置、音長</li> <li>■ 長い楽曲の場合の提示方法(ページ単位、スクロール方式)</li> </ul> </li> </ul>												

## 生演奏の意味合いを踏まえたスピーカーの配置 ～演奏会場での音空間のデザイン～

森松 慶子

\*電子楽器の音の出口はスピーカーである。

\*スピーカーの向きや配置場所は、電子楽器も生楽器と似た感覚で扱うのか、電子楽器特有の効果を生かすのかによって変わってくる。

\*演奏者は、本来、聴衆の耳に届くところまでを自分の演奏として音に責任を持ちたい。

\*スピーカーを用いた演奏会では、音の行方を他の人に委ねることも多い。

\*委ねるのであれば、十分な打ち合わせと合意が欲しいが、実際はなかなか難しい。

\*電子オルガンでの演奏の場合、作編曲やレジストレーションをどれほど注意深く仕上げ、演奏の練習をどれほど積んだところで、スピーカーから聴衆に届いた時点で音量感や音質、共演者とのバランスが制作時の意図と食い違っていれば、非常に不本意な結果に終わる。

\*委ねるだけでなく、奏者と聴衆とが別々のスピーカーから出る、バランスも音量感も異なる別々の音空間にいることもしばしばで、生演奏の臨場感を損ねているのではないか。

\*これまでにこの問題を考えながらその折々の考えを実例と共にまとめてきた。

1)「ライブパフォーマンスにおける音場～電子オルガンと音像一致・舞台と客席が空気感を共にする音環境～」  
電子キーボード音楽研究 vol. 7(2012年)

2)「アンサンブル演奏における音量バランス～電子楽器を含むアンサンブルでの試行錯誤と考察～」  
電子キーボード音楽研究 vol. 10(2015年)

3)「音の出口～スピーカーの配置、共演者、聴衆の聞こえ方～」

昨年の本学会全国大会ランチタイムミーティング。本誌 p58 に報告書掲載  
上記に書いてきたことを今一度自分の中でまとめて、一つの立場として発表し、様々なノウハウや実践の積み重ねをお持ちの皆様にご助言等頂戴できれば幸いである。

\*数年前からこの問題に関してはそれぞれの活動をしている学会員がお互いの考えや経験、知識を共有し、それぞれの現場で生かす場を持ちたい、という声が上がっていた。なかなか実働できずにいるが、本発表が、少しでもその方向に進む布石なれば、さらに幸いである。

## MacGAMUT 6 ソフトウェアによる基礎楽理及び聴力学習の強化

マーク・マンノ (台湾・東海大学准教授)

翻訳：増田真意子 (湘南中文学苑)

西洋音楽を学ぶ学生は、音楽を十分に聴くと同時に、その音楽を伝統的な五線譜に書き起こす練習にも、十分な時間が必要である。従来の練習法では、指導者が演奏し学生が聴き取った後、伝統的な五線譜に書き起こす。この方法では、指導者が何度も説明し、学生が書き起こした後に、指導者が答案を添削する必要があった。しかし MacGAMUT6 を用いることで、学生は何度も自習することが可能となる。ただし学生の学習進度に対し、指導者が監督指導することが必要である。

ここで台湾・東海大学で用いている MacGAMUT6 の特徴と東海大学で使用結果を述べる。

### 1. 東海大学について

創立 61 年目を迎えたキリスト教系 9 学部 34 学科の私立総合大学

音楽科は、創立 45 年目。専攻は、作曲、ピアノ、電子オルガン、管弦打楽器の学士と修士

電子オルガンは、JSEKM 第・回大会で郭宗愷教授が言及したように電子オルガン副科を中心とした電子オルガンオーケストラが有名

\*添付資料参照

### 2. MacGAMUT 6 ソフトウェア

- ・ 基礎楽理に関する訓練
  - Intervals (音程) - 2 オクターブ以内 - 旋律と和声
  - Scales (音階) - 長調と短調、教会旋法、五音音階、全音音階、八音音階、ジャズの音階
  - Chords (和音) - 三和音 七の和音
- ・ 採譜 (聴音し記譜する) 訓練
  - Intervals (音程の採譜) - 2 オクターブ以内 - 旋律と和音
  - Scales (音階の採譜) - 長調と短調、教会旋法、五音音階、全音音階、八音音階、ジャズの音階など
  - Chords (和音の採譜) - 三和音、七の和音及びそれらの転回
  - Rhythm (リズムの採譜) - 単純拍子 (2/4, 3/4, 4/4)、複合拍子 (6/8, 9/8, 12/8)、変拍子 (5/8, 7/8)
  - Melodic (旋律の採譜) - 簡単な内容から開始し、難易度を上げる。18 段階程度
  - Harmonic (和声の進行の記譜) - 主要三和音、副三和音、属七の和音、借用和音、ナポリの六度、増六和音、不規則な和声の解決。

MacGAMUT Music Software International: [www.macgamut.com](http://www.macgamut.com)

### 3. MacGAMUT 6 ソフトウェアの使用して見て

- ・ メリットと留意点
- ・ よりよく活用するための提案

＜発表者および所属大学に関する参考情報＞

マーク・マンノ (Mark Manno、馬邁克) 略歴と台湾・東海大学インフォメーション

- 准教授
- 学歴：テキサス州立大学音楽教育博士
- 指導課程：総譜の初見、鍵盤技巧、音楽基礎訓練、ピアノ（選択科目）
- 専門：キーボード教学、音楽基礎訓練
- 現在の教職：東海大学音楽課（台湾・在職三十五年）

東海大学（台湾）について

- 私立キリスト教系大学
  - 創立年：1955年
  - 学生総数：17,000人以上
  - 学部及び学科（括弧内は所属する学科の数）
    - 文学部（五学科）
    - 理学部（四学科）
    - 工学部（五学科）
    - 管理学部（六学科）
    - 社会科学部（五学科）
    - 農学部（三学科）
    - 芸術及びクリエイティブデザイン学部（五学科）
    - 法学部（一学科）
    - 国際学部
- 以上9学部34学科

東海大学音楽科について

- 学科の創設年：1971年
- 学位：演奏学士、作曲学士、演奏修士、作曲修士、指揮学修士
- 専攻：ピアノ、エレクトーン、声楽、弦楽器（バイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス）、木管楽器（フルート、オーボエ、クラリネット、サキソフォーン、バスーン）、金管楽器（トランペット、フレンチホルン、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ）、打楽器、作曲
- 学生の総数：約250名
- 専任の教師：15名
- 兼任の教師：65名

## 大宮和幸楽器シニア対象キーボード講座 —タテ線譜の改良と身体にやさしい奏法の早期導入—

秋谷万里子 (和幸楽器大宮店)

はじめに

28年間シニアの目線に立ち、寄り添い、個々人の目標やペースに合わせてレッスンを続けてきた。シニア世代にとってピアノの習得を難しくしているのは、指が動くかと言う事よりも、五線紙の譜読みである。タテ線楽譜メソッドは、勇気を持って鍵盤楽器にチャレンジするシニアにとって 憧れの曲を弾くという夢の実現を助ける手段として有効である。

### 1. 大宮和幸楽器シニア講座の概要

開 講：2014年9月、月1回のグループレッスン

教 室：ヤマハ音楽教室幼児科用教室 楽器：エレクトーン9台・グランドピアノ

受講者：男性=3名、女性=3名 年齢=60~70歳代 レッスン風景：ビデオ参照

2. 2年間のグループ講座を通して「身体や心に優しく！」をモットーに、「タテ線譜の改良」「身体を痛めないためのテクニックの早期導入」を試みてきた。

以下、和幸楽器で試みているタテ線譜の改良点である。

改良タテ線譜を使用することで、習得を早め、五線譜楽譜へのスムーズな移行が実現しつつある。

- ① 左手で弾く鍵盤の位置が容易に判るように、「左手用のタテ線譜を追加」
- ② 目で楽譜を追い易いように、ここでは白黒であるが「左手用と右手用のタテ線を色分け」
- ③ 鍵盤の位置が容易に判るように、「1オクターブ毎に鍵盤を色分け」 \*ここでは白黒。以下、同様
- ④ コードを容易に弾けるように、「コードの構成音を示して互いに連結」
- ⑤ 不慣れな人でもコードを直ぐに識別できるように、「コードの構成音の連結部分をコード別に色分け」
- ⑥ コードの流れを容易に把握できるように、「コード記号を縦一列に記載」
- ⑦ 「ポジション移動の箇所の色分け」
- ⑧ 白内障の方や高齢者の方にも「見易い色の使用」
- ⑨ 拍が明確に判るように、「拍を示す目盛を記載」
- ⑩ 「指こえ、指くぐり記号を新たに導入」。休符記号等の「五線譜で使われている記号を導入」

ラバース コンチェルト 1 M-A

⑪ 黒鍵に対応する指番号は「白黒反転」

### 3. 今後の方向性

楽器未所有者 (70歳代男性) の「紙鍵盤の奇跡」→楽器を超越 「タテ線譜」の楽しみ方の方向→コード+リズム、移調、変奏 楽器店会場の午前の解放→新しい鍵盤楽器シニア層の需要創造

## 高度経済成長期1970年前後の電子オルガン事情 ～ハモンドオルガンX-66を中心に～

金銅 英二

- \* ハモンドオルガン X-66、1966年にアメリカで開発 本体デザインはアメリカの工科大学内で選考
- \* 楽器の音源はハモンドオルガン独自のトーンホイール方式と分周式のコンポジット型
- \* 独自の音色（ハモンド B-3 とは異なる）でポピュラー向き
- \* 専用トーンキャビネットに回転方式はなく、特殊なヴィブラートによる立体的な音場実現
- \* アルペジエーター機能を装備
- \* 開発の1年後1967年5月に9,795ドルで発売された。（高級車キャデラック6,000ドルより高値）
- \* 日本では1969年1月に発売開始 定価4,350,000円 後に5,150,000円（本体のみ）で販売
- \* 当時の主要センター&ショールーム ハモンドオルガン心齋橋センター、赤坂センターに展示
- \* 日本国内で数台販売
- \* 納入先は放送局、百貨店、レストラン、喫茶店、個人宅
- \* 現在も世界中に X-66 オーナーが存在（オーナーズ・クラブもあり）
- \* 国内では道 志郎氏・田代ユリ氏が放送やレコードを通じ演奏

ハモンドオルガン X-66 と専用トーンキャビネット 12-77

高度経済成長期の1970年前後に開発販売された楽器（フラッグシップモデル）は高額にも関わらず世界中で販売された。放送局や百貨店などに導入され、多くの人目に触れる楽器となった。この楽器に憧れて電子オルガンを始めた人もいる。2012年の本学会第八回全国大会にて研究発表し、学会誌にも投稿し取り上げたヤマハエレクトーン EX-42（1970年11月発売）も斬新なデザインを持ち放送局などで活躍した。1970年前後に活躍した楽器を紹介し、デザインや音色などで憧れの楽器となるフラッグシップモデル開発は電子オルガンの隆盛や電子オルガン人口増加につながらないか？共に考えてみたい。



## ミュージカル創作におけるMLの活用

石川 裕司 (東京学芸大学)

小林 恭子 (目白大学)

目白大学では、今年度秋学期より「音楽実技」において、ピアノ実技の他、小グループによるミュージカルの創作活動を取り上げることとなった。今期より開始するミュージカルの創作活動には、主に3つの学習プロセスがあり、1) 既存の曲 (例えば「花は咲く」「気球に乗ってどこまでも」など) をもとに関連のある物語を創作する、2) 創作した物語を生かすような伴奏をML教室で創作する、3) 創作した伴奏音源を使用して生かして表現活動を行う、という内容で構成されている。

この授業に先立ち、本研究ではそのパイロット的検討として、「児童教育学特別セミナー (4年)」及び「児童教育学専門セミナー (3年)」を受講する学生を対象に、楽曲「手のひらを太陽に」をもとにしたミュージカルの創作活動を行い、その成果についてMLの活用 (とりわけMLの多重録音機能) を中心に述べるものである。

尚、実践は下記の日程で行った。

- 1) 「手のひらを太陽に」をもとにした物語の創作 (2016年7月26日)
- 2) ML教室において「手のひらを太陽に」の伴奏を創作 (2016年9月30日)
- 3) 創作した物語や伴奏をもとに身体表現を考える (2016年10月14日)

本実践にあたり、ML教室のキーボードはヤマハCVP701を使用している。

### 1) 「手のひらを太陽に」をもとに学生が創作した物語の概要

学生は、作詞者であるやなせたかし氏の戦争体験と歌詞とを重ね合わせつつ、物語を創作した。物語の主演は、上官から出征を告げられた若者たちであり、未来を「生きたい」という気持ちや逆らったら殺されるかもしれないという恐怖などをミュージカルとしてコミカルさを含めつつ表現することとした。動物が登場してくる部分は、ユーモアを狙ってマッカーサーなどを登場させるなどの工夫を行い、「みんな仲良く一緒に」歌って終わる物語とした。

### 2) ML教室で作成した伴奏創作において使用した音色の一覧 (一部のみ掲載)

右の表に示したように、学生は、短いフレーズのなかに登場人物の心情や物語との接点を見出しつつ、様々な音色を取捨選択して伴奏を創作していた。登場する複数の人物の気持ちが交錯する「ミュージカル」というものを対象にしたことで、

より豊かな活動となったといえる

また、こうした活動は作曲技法の学習の端緒となるものともいえる。これをさらに、音楽の諸要素 (たとえば強弱の工夫等) についても細かく検討してゆくことによって、音楽実技の中でミュージカルの創作を行う意義がより高まるものとする。また、ML教室はそうした活動に適した環境といえる。

	配役(心情)	主に使用した音色	選択した理由	リズム等
前奏		シンフォニーホルントロンボーン	勇気のある感じ	力強い感じ
僕らはみんな(略)歌うんだ	士官1(戦争にはいきたくない)	ロックレジェンド ダイノアシットベア	反抗(期的)	はちゃめちゃ・昔を思い出して
僕らはみんな(略)かないんだ	士官2(上官に従うものの戦争に行きたくない)	ス ピッコロ		
手のひらを太陽にすかして(略)僕の血潮	士官1	イーブンバー HPF ダンス スパークルスタックエレビ	快晴な感じ	怖いながらも愉快なリズム軍隊をイメージ
ミズだって	士官2	トークモジュレーション スイートシ アターオルガン ヘビロックギター	人間ほく	リズムは機械的・近未来感
オケラだって	上官(台詞っぽく)			
アメンボだって	マッカーサー(台詞っぽく)			

3) 及びMLの活用の詳細については、口頭発表において述べることにしたい。

## 小学校音楽科におけるタテ線譜を用いた鍵盤ハーモニカの学習について

垣浪 文美香 (東京学芸大学附属大泉小学校)

### 1. 小学校音楽科授業におけるタテ線譜を用いた鍵盤ハーモニカの学習の研究と報告

平成27年12月から平成28年1月にかけて本校の2年生を対象に「タテ線譜」を使用しヴィヴァルディの「四季」より「春」を鍵盤ハーモニカ3パートをグループで演奏する授業を行った。視覚的に分かりやすい「タテ線譜」を用いることにより誰もがタテ線譜を見ながら自力で演奏できると考えた。パートごとに練習をし友達と音をそろえるための工夫を考えながら演奏することを目指していった。低学年では、合奏で2部合奏が多く、同じ楽器での3部合奏の取り扱いはない。しかし、原曲のパートを生かし3部合奏に編曲し、高音パートを「ヴァイオリンパート」、中音パートを「ヴィオラパート」、低音パートを「チェロパート」とした。

タテ線譜は図として捉えやすく、鍵盤の位置を理解するのに適しており、五線譜を読めない児童も自分でタテ線譜を見て鍵盤ハーモニカを演奏することができ、苦手意識を持たずに取り組むことができると考えた。タテ線譜を見て鍵盤ハーモニカを演奏することができれば「出来た」「楽しい」と感じることができ、進んで鍵盤ハーモニカの練習を行い、学習課題に主体的に取り組むことができると考えた。

平成28年1月23日、本校の全国公開研究発表会において2年ふじ組(30名)を対象に研究授業を行った。ヴィヴァルディの「四季」より「春」を「同じパートの友達の音を聴き合いながら、音を合わせることを意識して演奏する」というねらいによる授業を展開した。別紙資料に指導案の本時の展開(学習の実際)を示す。

### 2. 考察

今回の学習で取り上げた「春」はテレビやCMでも流れることが多く、クラシックにあまり親しみのない低学年の児童にも抵抗感なく演奏することができると考えた。また、楽曲の特徴としては同じ旋律やリズムの繰り返しが多く練習しやすい。しかし、横線譜で表すと8分音符や付点4分音符などがあり、2年生にとって音符自体は既習事項であるが、これまでの鍵盤ハーモニカの学習曲で使用した横線譜では8分音符や付点4分音符は馴染みがない。そこで、「タテ線譜」を使用し、「春」を譜読みしたところ、概ね児童が自力で譜読みをすることができた。読譜に時間がかかる児童も、時間はかかっても自力で譜読みをし、逆に読譜の速い児童は、教師の力を借りずに先の譜読みを進めていき、児童が主体的に学習を進めることができた。研究授業では、同じパート同士で友達と音を合わせるにはどんなことに気をつけたらよいか考え、練習を行った。児童からは、「最初の音をそろえる」、「のばしている音をそろえるといい」などの意見が挙がった。協議会では「タテ線譜は誰にでもすぐ読めて分かりやすいのだが、この度の授業では特に、拍を意識することや音の長さが大切な視点となっていたため音の長さについては、タテ線譜で正確に表すことが難しいのではないか」という意見があった。

「春」は「メリーさんのひつじ」と同じサイズのタテ線譜を使用した場合、楽譜が十数枚(A4サイズ)にも及び、枚数を見ただけで児童の意欲がおちてしまうのではないかと考え、縮小し全6ページにおさえた。そのため、音の長さの微妙な差が分かりづらくなったと考える。

今後の改善策として、学習する演奏箇所のみ拡大したタテ線譜の楽譜を用いるなどの工夫が考えられる。タテ線譜において、音の長さをいかに分かりやすく児童に示すかということは次回への課題となった。

## ベルリンフィルと人工知能合奏技術による共演の試み

前澤 陽 (ヤマハ株式会社)

本発表では、ベルリン・フィルのシャルーン・アンサンブルと人工知能合奏システムを用いた自動演奏ピアノの間における共演について報告する。

我々は、2016年5月に東京藝術大学の協力の下、自動演奏ピアノとシャルーン・アンサンブルによるシューベルトの弦楽五重奏「鱒」のコンサートを実施した。自動演奏ピアノのパートにはスヴャトスラフ・リヒテルとボロディン・カルテットが録音したシューベルトの弦楽五重奏「鱒」のピアノパートを復元したデータを用いた。

このように自動演奏ピアノと人間の間でアンサンブルを行う場合、タイミングを合わせながら演奏することが難しい。人間同士の合奏では、互いの音を聞き合い合図を見ることでタイミングやテンポを合わせながら演奏する。しかし、従来の自動演奏ピアノには演奏者の音を聞いたり仕草を見ることができないため、予め与えられたシーケンスデータの再生に演奏者が合わせるしかなかった。そこで我々は、人間の演奏に合わせてながら自動演奏ピアノを制御するための人工知能合奏システムを開発した[1]。合奏システムは、人間の演奏音や映像データを実時間で入力すると人間の演奏に合わせて自動演奏ピアノを鳴らし、合図の画像を生成する。人間の演奏音や映像は、それぞれの演奏者の前に取り付けられたマイクとカメラから取得する。マイクからは演奏者の弾いている音を検出し楽譜情報と照合することで現在演奏されている位置を推定する。また、カメラからは演奏者の動きを検出することでフェルマータや楽曲開始前に出される合図を検出する。これらの視覚及び聴覚情報は確率モデルにより統一的に定式化される。演奏すべき位置を判断するために、前述した入力から推定された演奏位置に加え、合奏における2つの要素に着目する。

第一に演奏者同士の主従関係に着目する。例えばピアノパートがメロディーを奏でる場合、人間がピアノパートに合わせている必要がある。逆に人間がメロディーを奏でる場合は、ピアノが人間に合わせている必要がある。

第二に、ピアノパートが自然に演奏されるようなテンポの範囲に着目する。ピアノパートが音楽的に破綻しない演奏をするよう、ピアノが能動的に人間を所望のテンポに引き込むよう誘導する。本システムでは、これらの性質を線形動的システムとして統一的に扱われる。このように推定された自動演奏ピアノの演奏位置を基に自動演奏ピアノを制御するためのMIDI信号を生成する。また、ピアニストの「影」を模した画像が、演奏者に見える位置に生成される。これは、人間がピアニストの合図を見る必要がある場合、ピアニストが頷くような動作を適宜生成するために用いられる。このようなシステムを約一週間に渡り運用した。その中で得た機械と人間との間の合奏における知見を以下に述べる。

まず、演奏者に追従すること自体は重要であるが、追従する過程で機械の音楽性が破綻してはならない。特に、今回のケースのように機械が演奏するパートが特徴的である場合、演奏の個性が失われてしまう。そのため、元の自動演奏ピアノに対するシーケンスデータが最も音楽的に再生されるようなテンポ軌跡に機械が誘導することが好適である。次に、演奏者への追従する際に演奏者間の主従関係を考慮することが重要である。例えば、ピアノが安定したリズムを刻む中で弦楽器が自由に演奏することを期待されるような場面では、自動演奏ピアノが弦楽器に合わせて演奏者と

ってストレスとなる。また、合奏システムには応答としての一貫性が求められる。つまり演奏者の弾き方が変わらない場合、自動演奏ピアノの応答も変わらない必要がある。というのも、演奏者は自動演奏ピアノの弾き方にニュアンスを合わせようとするため、自動演奏ピアノが応答するニュアンスも一貫する必要があるからだ。ただし、応答としての一貫性が求められる一方、データとしての再現性は演奏者にストレスを与える。なぜならば、毎回同じタッチでミスを行わないデータに対して「ミスができない」という緊張感を人間が感じてしまうからだ。

本研究では、人間と合奏できる機械を実現するため、人工知能合奏システムを提案し、シャルーン・アンサンブルと本システムによるコンサートを開催した。今後の課題として、タッチを人間に合わせることと機械の音楽性を保持しながらより柔軟な伴奏を生成するための数理モデルの構築が挙げられる。

#### 参考文献

[1] 前澤 陽：自動合奏のためのタイミング結合モデル．第 112 回情報処理学会音楽情報科学研究会（2016-MUS-112）



第 11 回全国大会より 海外参加者情報交換会 2015 年 11 月 14 日（土）

於：東京学芸大学スポーツ芸術棟 3 階教室



第 11 回全国大会より パネルディスカッション電子オルガン部会 2015 年 11 月 15 日（日）

於：東京学芸大学スポーツ芸術棟 3 階教室

## 鍵盤指導者による音楽療育活動

～音楽でつなぐ心の輪～

大庭美奈子 稲原文江 島田美智子 藤井京子

(音楽療育鍵盤指導研究ネットワーク)

### 1. 音楽療育鍵盤指導研究ネットワークについて

音楽療育鍵盤指導研究ネットワークは、前身のjet音楽療育研究会(1998年～)の時代を含めると18年間活動をしている音楽指導者を中心とする団体です。その目的は一般的な音楽療法が目指すものとは少し異なっており、一般的な音楽療法が音楽による心身の変化を探求することが主たる目的であるのに対し、私たちは何らかのディスアビリティのある人々が音楽を楽しむための方法を研究することを第一の目的としています。

### 2. 活動について

私たちはこれらの人々（現在、多くは知的障害や小児自閉症の方ですが）に対してレッスンをを行い、また自尊感情を高める目的で2年に一度発表の場（ハートフルコンサート）を設けています。レッスンでは可能な限り患児者および保護者の同意のもとレッスン場面をビデオ撮影し、各患児者について年に1回レポートを提出し、その経験を全員で共有し、類似した他の場面で活かせるような形として保存しています。また2年に1回開催されるハートフルコンサートでは、「出演する以上は絶対に失敗体験にしない」ことを念頭にそれぞれの音楽指導者が自分の生徒さんに出演を打診します。ハートフルコンサートに出場することで患児者は、観客からのpositiveな反応を得、自らは達成感を体験し、場合によってはその場でほかの児者と新たな人間関係を作ることが可能となります。これらの経験が自尊感情の強化につながって、ハートフルコンサート後に行動が大きく変わったように見える患児者もいます。

### 3. 経験事例

これまで、私たちは、前述のような個人レッスンとコンサートを利用して音楽指導を行っている例としてはダウン症に代表される精神遅滞、小児自閉症やアスペルガー障害などに代表される発達障害を数十名以上経験しています。このほか、難聴の方に対し、可聴域を見つけて音階の概念を獲得可能とした鍵盤指導、脳梗塞のため左片麻痺となった鍵盤経験者に対する鍵盤指導、不登校のお子さんに対し役割を与えることで復学可能となった例などを経験しています。また、複数の音楽指導者が高齢者施設や医療機関における音楽セッションに取り組み、本邦の施設における音楽セッションの導入技法や音楽セッションを洗練するための工夫についても研究しています。

### 4. 今後の方向性

現在、創設当初から18年が経過していますが、音楽教室は学校教育とは異なり患児者と長期に関わることが可能で、創設当初から18年間関わっている音楽指導者や患児者の方もいます。実際のところ、多人数の患児者について長期の指導を行い、その経過を把握している団体は多くはないのではないかと考えています。私たちは、これまでに、レッスンほどの程度の見通しを持って行えるか、ご家族との関係はどうすればよいか、楽曲演奏のレベルのゴールをどの程度に設定すればよいか、視聴覚に異常がある場合どのようにすればレッスンが可能であるか、など、患児者が新たに音楽指導を求めて音楽教室に来られた場合の方略を研究してきています。今後もこのような研究を続けるとともに、次世代の指導者に蓄積された知識を引き継いでいくことが私たちに課せられた課題と考えています。この分野の今後の発展に些少でも役立つことができることが私たちの願いです。

今まで大会の目玉として電子オルガンやハイブリッドオーケストラによる「研究コンサート」を開催してきました。今年度から、大会参加者の多様化や会場校の経費負担軽減などを考慮して、参加者全員が広く電子キーボード音楽・教育に関する最新情報を共有するという趣旨で「研究コンサート」は新しく「JSEKM 情報交換 2016」に変わります。今年度は第 12 回大会の 3 分野（パネルディスカッション、ラウンドテーブル、研究発表）と海外関連が報告されます。

## 《JSEKM 情報交換 2016》

1. 電子オルガン関連・・・・・・・・・・・・・・・・報告者：柴田 薫
  - ・パネルディスカッション
  
  - ・研究報告ほか
  
2. ML（ミュージック・ラボラトリー）関連・・・・・・・・報告者：脇山 純
  - ・パネルディスカッション
  
  - ・研究報告ほか
  
3. タテ線譜メソッド関連・・・・・・・・・・・・・・・・報告者：和智 正忠
  - ・ラウンドテーブル
  
  - ・研究発表ほか
  
4. 海外関連・・・・・・・・・・・・・・・・報告者：阿方 俊
  - ・電子オルガンコンペティション（ヤマハ、リングウェイ） in 中国
  - ・電子オルガンのためのサマーキャンプ in 東京 2016 \*記事コピー
  - ・北京国際パイプ&電子オルガン学術フォーラム at 中央音楽学院
  - ・シンガポール国立 Yong Siew Toh コンセルバトアール創立 10 周年記念コンサート
  - ・中国電子オルガン専攻大学・学校教育連盟設立大学 at 上海音楽院

日本電子キーボード音楽学会

(2016年11月)

<幹事>

代表 出田 敬三 平成音楽大学  
副代表 下八川共祐 昭和音楽大学  
小倉隆一郎 文教大学  
事務局長 阿方 俊 平成音楽大学  
幹事 赤塚 博美 洗足学園音楽大学  
石川 裕司 東京学芸大学  
大串 和久 淑徳大学  
金銅 英二 松本歯科大学  
柴田 薫 昭和音楽大学  
田中 功一 立教女学院短期大学  
事務局 北條 哲男 東京藝術大学

<第12回大会実行委員>

実行委員長 諸井野ぞ美 昭和音楽大学  
実行委員 赤塚 博美 洗足学園音楽大学  
石川 裕司 東京学芸大学  
小倉隆一郎 文教大学  
金銅 英二 松本歯科大学 \*大会要項  
柴田 薫 昭和音楽大学  
田中 功一 立教女学院短期大学  
脇山 純 平成音楽大学  
阿方 俊 JSEKM 事務局  
北條 哲男 JSEKM 事務局  
森松 慶子 JSEKM 編集委員 \*学会誌  
五十嵐 優 JSEKM 事務局補佐  
楠田しおり JSEKM 運営アシスタント

<名誉幹事>

高萩 保治 東京学芸大学名誉教授

<会計監査>

古田 政伸 横浜アオバ楽器  
宮本 賢二郎 浜松学芸高等学校

<団体会員>

国立音楽大学  
昭和音楽大学  
平成音楽大学  
浜松学芸高等学校

<賛助会員>

ヤマハ株式会社  
株式会社コルグ  
ローランド株式会社  
菅波楽器株式会社  
株式会社松栄楽器店  
株式会社ミュージックトレード  
INA INTERNATIONAL

JSEKM

日本電子キーボード音楽学会第12回全国大会

「要 項」

発行日 2016年11月13日

編集発行人 日本電子キーボード音楽学会

〒215-8551 神奈川県川崎市麻生区上麻生 1-11-1

昭和音楽大学内

[Tel:044-953-1121](tel:044-953-1121) Fax:044-951-1311

e-mail:[jsekm@view.ocn.ne.jp](mailto:jsekm@view.ocn.ne.jp)

<http://jsekm.jp/>

# 日本電子キーボード音楽学会 第12回全国大会

## スケジュール

2016年11月13日(日) 昭和音楽大学南校舎

10:00	《受付》 5階エレベーターホール 午前会場 南校舎5階C511		
10:30	あいさつ 築瀬 進(昭和音楽大学学長・会場校) 出田敬三(平成音楽大学学長・学会代表)		
10:45	基調講演 日本音楽舞踊会議コンサートシリーズから見えてくる電子オルガンの将来像 ・ピアニストから見た電子オルガンの魅力 北川暁子(音舞会理事長) ・「EL オーケストラによるコンチェルトとアリアのタベ」シリーズと共生の可能性 戸引小夜子(音舞会副理事長) ・「COMPOSITIONS」シリーズとオリジナル作品の可能性 西山淑子(音舞会理事)		
11:30	総会		
12:00	昼食		
	パネルディスカッション		ラウンドテーブル
	会場-1 (A316)	会場-2 (A312)	会場-3 (A315)
13:00   14:30	電子オルガン関連 電子オルガンの教育楽器としての可能性—電子オルガンの裾野を広げる試み— パネリスト: 西山淑子(昭和音大)、小林ひとみ(カワイ音楽教室)、高橋 豊(EL シティー渋谷) 司会: 柴田 薫 書記: 金銅英二	ML(Music Laboratory)関連 電子キーボードと ICT を活用する音楽教育 パネリスト: 上出美希(杉並和泉学園中学)、小栗貴弘(美谷本小学校)、田中功一(立教女学院短大) 司会: 脇山 純、小倉隆一郎 書記: 石川裕司	タテ線譜メソッド関連 タテ線譜メソッドとは何か - II —シニア世代から小学生まで広がったメソッド実践報告— 企画・コメンテーター: 阿方 俊 アドバイザー: 和智 正忠 司会: 内田智子 書記: 坂 利美
	休憩 (15分)		
	研究発表		
	会場-1 (A316)	会場-2 (A312)	会場-3 (A315)
	司会: 森下絹代 書記: 柴田 薫	司会: 赤津裕子 書記: 脇山 純	司会: 小澤真弓 書記: 中村真貴
14:45   15:15	研究発表① 森松慶子 生演奏の意味合いを踏まえたスピーカーの配置、演奏会場での音空間のデザイン	研究発表② マーク・マンノ MacGAMUT 6 ソフトウェアによる基礎楽理及び聴力学習の強化	研究発表③ 秋谷万里子 大宮和幸楽器シニア対象キーボード講座—タテ線譜の改良と身体にやさしい奏法の早期導入—
	小休憩 (5分)		
15:20   15:50	研究発表④ 金銅英二 高度経済成長期1970年前後の電子オルガン事情 ハモンドオルガン X-66 を中心に	研究発表⑤ 石川裕司、小林恭子 ミュージカル創作における ML (ミュージック・ラボラトリー) の活用	研究発表⑥ 垣浪文美香 小学校におけるタテ線譜を用いた鍵盤ハーモニカの学習について
	小休憩 (5分)		
15:55   16:25	研究発表⑦ 前澤 陽 ベルリンフィルと人工知能合奏技術による共演の試み	*会場-1 または会場-2 にご参加ください。	研究発表⑧ 稲原文江、大庭美奈子、島田美智子、藤井京子 鍵盤指導者による音楽療育活動—音楽でつなぐ心の輪—
	小休憩		
16:45   17:45	《JSEKM 情報交換 2016》 5階 C5 1 1 ・電子オルガン関連 (パネルおよび研究報告まとめ他) . . . . . 柴田 薫 ・ML (Music Laboratory) 関連 (パネルおよび研究報告まとめ他) . . . . . 脇山 純 ・タテ線譜メソッド関連 (ラウンドおよび研究報告まとめ他) . . . . . 和智正忠 ・海外関連 (中国の EO コンクール、シンガポール音楽院の EO 楽団、サマーキャンプ in 東京) ・阿方 俊		
	休憩 (15分)		
18:00	懇親会 (会場: 1階学生食堂)		